

北部病院だより 第105号(2017.3)

Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】 病院長退任のご挨拶

【退任のご挨拶】

【患者さんからのご意見・ご要望】

【医師の配属・異動】 【診療統計】

【TOPICS】 認定助産師修了式を開催しました

【TOPICS】 スキルアップセミナーを開催しました

北部病院ワークショップを開催しました



巻頭言

『病院長退任のご挨拶』



本年3月で昭和大学を辞することになりました。北部病院での最後の3年間は病院長として、1200人の職員に支えられながらの職務を全うしてきましたと思っています。

様々なご批判や至らない点多々あったと思いますが、北部病院が昭和大学の附属病院の中で収支が良くなったことは、医師を始め、コ・メディカルやその他の職員が、患者さん達のために一生懸命尽くしてきた証だと思って大変感謝しています。

1976年（昭和51年）4月に昭和大学医学部麻酔科学教室に入局し、手術室内での麻酔業務やペインクリニック外来に従事始めました。それ以来42年、昭和大学病院、藤が丘病院、北部病院と勤務地を変え、北部病院で昭和大学の最後の勤務を終えることになりました。多くの諸先輩と多くの仲間に支えられながらの42年間でしたが、この間には、辛いこと、悲しいこと、それ以上に楽しいこともありました。自分にとっても喜びの時間も多々ありました。多くの経験が、現在の私を形作っていると言っても過言ではありません。

この42年間には、沢山の思い出があります。中でも、20年間続けた秘境ネパールでの国際医療ボランティアの口唇口蓋裂チームに、麻酔科医として参加出来たことは私にとって大変貴重な経験でした。20年間で約1,000件の手術を行ってきましたが、言葉の通じない沢山のこども達とその親たちとのふれあいは私にとっての宝物です。

私の後任の院長には、呼吸器センターの門倉光隆先生が就任いたします。

まだまだ北部病院には多くの課題が残っています。門倉新院長の舵取りで北部病院という大きな船をどのように操船していくのか、その手腕が問われるところですが、門倉先生はこの荒波を卓越した手腕と人柄で乗り越えていくと確信しております。職員全員が、ベクトルの方向を一緒にして、難関を乗り越えていただきたいと思います。

最後に、北部病院に集う職員の皆様のご健勝と、北部病院が安心して安全な病院であり続けることを心よりお祈りして、退任の挨拶とさせていただきます。

病院長 世良田 和幸

定年退職者のご挨拶

◇内科 衣笠 えり子◇

早いもので昭和大学横浜市北部病院が開院して丸16年が経ち、私も3月末で退任を迎えることになりました。これもひとえに大学や病院スタッフ、患者・家族の皆さまに支えられての結果であり、感謝の念に堪えません。

2001年4月1日の北部病院の開院に当たって、大学病院としては国内で初めての電子カルテの導入やセンター制の採用など、新しい試みが盛りだくさんで、久しぶりの当直業務など毎日わくわくしながら診療に当たっていたことが思い出されます。内科は総合内科として、私の専門の腎臓内科以外に神経内科、内分泌代謝、消化器・血液・腫瘍内科などが同じ病棟で診療、回診を行っており、各専門領域の最新の医療のみならず専門性に片寄らない環境下で色々勉強させて頂きました。医師人生の後半を北部病院の勤務で終われることを感謝すると同時に、皆さまの今後のご活躍を祈念いたします。



◇手術室 石橋 まゆみ◇

平成元年、1月に大学病院の中央手術室勤務を命ぜられ、24年間を大学病院、そして定年までの4年間を北部病院手術室に勤務し、手術看護一筋に歩んできました。異動後の4年間があつという間に過ぎました。在職中は皆様のご指導により支えられ、何よりも心が通い合う職員のみなさんと一緒に、一生懸命助け合いながら恵まれた環境の中で定年を迎えることができますことを大変うれしく思います。本当にありがとうございました。

皆様方のご健勝とご活躍並びに北部病院の益々のご発展を心よりお祈りしております。



◇患者支援室 遠山 越子◇

社会人として昭和大学に始まり昭和大学でゴールを迎えます。その間、藤が丘病院と北部病院の二つの急性期医療機関の相談部門を立ち上げるという貴重な経験をさせて頂きました。それはとても生き生きとし、わくわくする体験でした。

前に就いていく人がいない、常に切り開かねばならないという使命感が、自分を成長させてくれました。それもこれも、家族を含め現場の多くの方々への深い理解とご支援があってこそ達成できたことです。ありがとうございました。

感謝とともに今後の昭和大学と北部病院のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。



◇管理課 河野 敬之◇

この程3月31日をもちまして、定年退職を迎えたことを、皆様に感謝申し上げます。昭和54年より昭和大学事務職員として38年間に渡り勤務し、つつがなく今日を迎えられましたのもひとえに皆様の温情の賜物と、心より感謝申し上げます。

長い間公私に渡り色々とお世話になりましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。いたならぬ私ではございましたが、皆様方のお陰で大過なく勤めさせて頂きました。

最後に皆様のご健勝とご活躍を、そして昭和大学のご発展をお祈り申し上げ、御礼の挨拶とさせて頂きます。

長い間ありがとうございました。



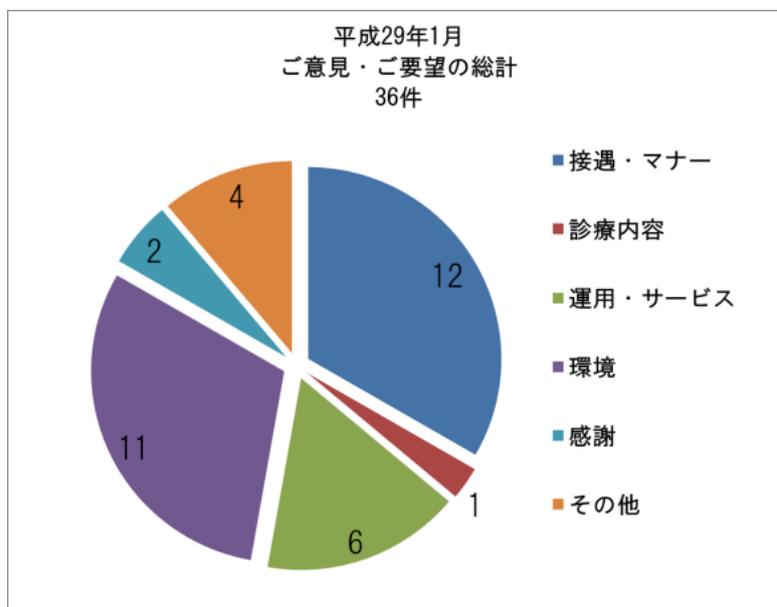
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、基本的に毎週月曜日に回収し、病院長及び関連する部署の責任者に迅速に報告し、改善に努めております。

今号では平成 28 年度（2019 年 1 月まで）にいただいたご意見・ご要望の中で、実際に改善を行った内容を掲載させていただきました。すべてを掲載することは適わず、掲載していない内容についても対応しておりますのでご承知おきください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	改善・対応内容
<p>< 接客・マナーについて ></p> <p>入院受付の際、受付をした人の対応が悪かった。あまりにも事務的すぎる。 等、受付の接客に対する多数のご意見</p>	<p>ご意見を受けて、受付事務を対象とした接客マナー研修を開催いたしました。 9 月に身だしなみや顧客満足 5 原則をテーマとして第 1 シリーズを開催し、計 115 名が参加いたしました。また、10 月には敬語や聞き方・話し方をテーマとして第 2 シリーズを開催し、計 120 名が参加いたしました。 今後も第 3 シリーズを開催し、接客マナーの向上を図ってまいります。</p>
<p>< 設備・備品について ></p> <p>小児科内トイレのおむつ交換台が破損して、使用時子供の手が当たって危なかったため、修理または交換をお願いしたい。</p>	<p>ご意見を受けまして現場を確認し、早急に修理を行いました。 なお、このご意見に対する対応スケジュールは以下のとおりです。 5 月 18 日（水）：ご意見記載 5 月 23 日（月）：ご意見の回収・関係部署への報告 5 月 24 日（火）：必要部品の発注 6 月 3 日（金）：部品到着・修理完了</p>
<p>< 提供サービスについて ></p> <p>軟飯を依頼しているのにも関わらず、井ぶりのご飯が硬いのを何とかしてほしい。</p>	<p>今まで丼物、カレーライス、ハヤシライス、炊き込みご飯などのメニューは、軟飯ではなく普通のご飯で提供していたことが判明いたしました。10 月 27 日昼食よりすべてのメニューについて軟飯で対応するように改善いたしました。 なお、チャーハン、ちらし寿司、炊き込みご飯、混ぜご飯など軟飯では美味しく仕上がらないメニューについては別メニューで対応させていただきます。 なお、このご意見については以下のスケジュールで対応・改善いたしました。 10 月 23 日（日）：ご意見記載 10 月 24 日（月）：ご意見の回収・関係部署への報告 10 月 27 日（木）：完了</p>



医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2017年3月

【附属施設より】

- ・ 小林 香映 (皮膚科) 東病院 皮膚科より
- ・ 武重 千沙 (皮膚科) 東病院 皮膚科より

【学外研修・国内留学終了】

- ・ 片岡 伸一 (消化器センター)

異動・退職医師

2017年3月

【附属施設へ】

- ・ 佐藤 由似 (皮膚科) ⇒ 東病院 皮膚科へ
- ・ 三輪 佑 (皮膚科) ⇒ 東病院 皮膚科へ
- ・ 竹内 誠也 (外科) ⇒ 藤が丘病院 形成外科へ

診療統計

前年同月比 ()内は1日平均

診療実日数 2016年1月(入院:31日・外来:23日)、2017年1月(入院:31日・外来:23日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2016年1月	16,612人(535.9人)	26,046人(1,132.4人)	414件(13.4件)	640件(33.7件)
2017年1月	18,257人(588.9人)	26,349人(1,145.6人)	484件(15.6件)	711件(37.4件)

TOPICS

平成28年度 認定助産師修了式を挙行了しました。



平成29年2月7日(火)に認定助産師修了式を挙行了しました。

安全な分娩のために、助産師と医師において共通した認識のもと、妊産婦の理解が得られるような体制作りが求められている現状を鑑み、昭和大学では分娩管理に関する助産師の水準を規定しております。そうした基準を満たした助産師を「アドバンス助産師」として認定しております。

今年度は当院5名の助産師が認定され、マタニティハウスで行われる助産師主体の分娩に積極的に参画し、助産ケアのみならず、母児の健康ケアに貢献します。

(後列左より) 津川係長、光田助産師、菅野助産師、竹内助産師、清水助産師、駒井助産師、大野係長

(前列左より) 高木師長、立川看護部長、小出学長、世良田病院長、長塚教授

TOPICS

スキルアップセミナーを開催しました

平成 29 年 1 月 28 日（土）に当院に所属する研修医を対象として、昭和大学横浜市北部病院スキルアップセミナーが開催されました。

このセミナーは、日ごろ研鑽を積んでいる研修医に更なる手技の向上を目的に開催されるもので、本年で 6 年目を迎えます。当院を代表する消化器センターや循環器センター、呼吸器センターを始め、外科、耳鼻咽喉科、産婦人科などの各外科系診療科より、優れた講師陣を迎えての実施となりました。



参加した研修医からは「とても貴重な経験になった。今回の講習を通して、さらに研鑽に励みたい」「今回得た経験を基に今まで以上に日々の研修に取り組み、一人前の医師になりたい」等の感想をいただきました。

今回のセミナーを通じて、当院の未来を支えていく研修医たちが今よりも頼もしく、たくましい医師に成長することを願ってやみません。

TOPICS

第 10 回北部病院ワークショップを開催しました



平成 29 年 2 月 3 日（金）～4 日（土）、第 10 回北部病院ワークショップを開催しました。

時々刻々と変化し続けている病院を取り巻く環境の中で、当院の掲げる理念をより一層実践していくために、医師や看護師はもとより、放射線技師・臨床工学技士・事務職員などコメディカルの職員を含めた多職種混合のチームで、互いに当院の抱える問題を解決するために、熱い議論を交わしました。

皆さん、『やさしい日本語』というのを御存じでしょうか？横浜市では、外国人に情報発信をする時は、英語、中国語、ハンガール、スペイン語、ポルトガル語、『やさしい日本語』で行うこととしているそうです。先日、人権の取組の中で、企業の方々と横浜市役所でお話しを伺ってきました。担当の方は、外国人に対する表現の問題ではなく、“マインド（心、意識）”の問題であり、相手にどう伝わったのか、相手に寄り添った対応であったのが大切で、この取組が、例えば、申請書類の簡素化などにもつながっていけばとのことでした。ぜひ参考にしてください。

ところで、今年度も残すところわずかとなり、卒業や異動の時期が近づいてきました。一期一会。一人ひとりとの出会いや思いを大切に前に進んでいきましょう。

広報委員 羽田 政直（地域医療連携室）

北部病院だより 第 105 号

平成 29 年 3 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。